

国語科 二〇二六年度一般入試の出題方針

～受験生の皆さんへ 国語科からのメッセージ～

本校の国語入試は、小学校や中学校で学習してきた「日本語の運用能力」がどのくらい定着しているか、またその力をどのくらい生かすことができるかを様々な角度からはかることを目的としています。

「日本語の運用能力」とは、日常生活の中で「言葉」と意識的に向き合うことで磨かれ、高められてゆくものだと思われています。先生・家族・友達等の話やニュースの言葉に関心を持って考察したり、読書を進んで行ったり、文章中の情報を順序立てて整理したり、自分の考えを文章でわかりやすく的確にまとめたりする、そのような学習に積極的に取り組み「日本語の運用能力」を日々高められる人に、活躍してほしいと願っています。

さて、二〇二六年度の入試問題の構成は、次のように予定しています。

○漢字の読み書き…皆さんが普段の読書の中で獲得しているであろう語彙や、新聞等で目にする用語等から出題します。「読書はしていますか?」「ニュースに関心を持っていますか?」というメッセージを込めています。また、憲法や法律において使用される語も出題しています。日頃から改まった文体にも目を通しておくとういでしょう。

○情報の整理…短文を読んでそれと合致するグラフや文章を選ぶなどといった形式で、情報を整理する問題を出題します。これは理科や社会も含め、中学校の教科書をきちんと読めていますか、ということを確認するものです。

○古文読解…古文または漢文の内容読解について出題します。古典文法の知識のみを問うことはしません。大まかな内容把握ができる力を問います。

○長文読解…現代文(説明的文章もしくは文学的文章)の内容読解について出題します。情報を適切に取捨選択する力、論理展開を正確に把握する力、総合的に解釈する力を問います。

○要約…一〇〇〇字程度の文章を八〇字以上一〇〇字以内で要約する問題を出題します。ここでは文章中から必要な情報を正確に抜き出し、筋が通るようにまとめる力を問います。本校では高校三年次に、全員が卒業論文(文コース)や卒業研究(理コース)に取り組みます。論文や研究報告作成には膨大な数の文献から必要な資料を探す力、的確な言葉を選び筋道を立てて文章を作る力が必要です。要約によってそのような力につながる基礎的な力をはかります。

【要約文作成のポイント】

文章を正確に読み、的確に記述する力は、私たちが生きていくために必須の力です。「要約文問題」では、その力をはかるために八〇字以上一〇〇字以内で「文章の論旨」をまとめてもらいます。

過去の問題で、要約の手順を説明してみましたので、ぜひ取り組んでみてください。

問 次の文章を①～③の条件にしたがつて、八〇字以上一〇〇字以内で要約しなさい。

- ① 三文で要約すること
- ② 第二文の書き出しを「しかし」、第三文の書き出しを「つまり」で始めること
- ③ 解答欄の一マス目から書き始め、句読点も一字に数えること

「絶滅危惧種 ポスター」と検索すると、そう認定された生物を保護することの必要性を訴えた数多くのポスターの画像を目にすることができるとある。ある企業のポスターは「ゾウさんはいなくなっちゃうの?」「トラさんごめんなさい」というキャッチコピーと共に、子どもが描いたと思われるゾウとトラの絵を載せている。他にもパンダ、シロクマ、カワウソ、ラッコ：様々な動物が絶滅危惧を訴える存在としてポスターに登場している。皆、つぶらな目をした霊長類、肉食動物、有蹄(うし)類ばかり。私たちが「かわいそうだからなんとかしなくちゃ」と、絶滅から守る対象として思い浮かべるのはとくこういった「象徴種」ばかりである。

一段落

「象徴種」というのは、人々の関心を集めることができ、保全事業を進めるときの社会的な合意を得るのに利用することができる種のことである。ゾウやトラ、パンダは他の生物より顔立ちが人間に近く、「かわいい」「かわいそう」と私たちに思わせるのに充分である。象徴種によって集まった資金は主に象徴種の保護のために使われる。事実、動物保護を目的としたNPOの資金は、大半がゾウやジャイアントパンダなど、象徴種に使われており、人気の高いトラのほとんどが生息しているインドでは、二〇一九年にトラの保護だけで五十億円以上が費やされた。

二段落

一方で知名度の低い魚類や(は)虫類、両生類、鳥類など、象徴種に該当しない多くの種が人知れず苦しんでいる。この、数々の生物の実態が知られていないことは大きな問題である。フィリピンワニは約百頭にまで減少し、かつてヨーロッパ全海域に生息していたカサザメは北海で絶滅した。中央および南東ヨーロッパの洞窟に生息している、数少ない完全水棲(せい)両生類であるホライモリも、減り

ゆく生物の一つだ。植物や無脊椎動物の人気の順位はさらに下の方になる。北米ではホンカワシンジユガイが今にも姿を消そうとしている。このように、世界では三万五千種以上の動植物が絶滅の危機に直面しているのだ。

三段落

ゾウやトラ、パンダを応援するのが悪いわけではない。「そうした種が好きだったから、私は保全活動を始めたのです」とイギリスの保全学者ボブ・スミスも言う。まずは近い存在の危機を知り、そこから象徴種以外の種にも目を向け、ルールや手立てを講じて保護を検討する。多くの人がそうなるにはどのようにしたらよいのかということを、私たちは考えていかなければならない。守られるのが人気者だけ、とならないように。

四段落

(雑誌記事をもとに本校で作成した)

論理的な文章で大切なことは、一般論とは異なる筆者の「主張」を読み取ることですが、その「主張」を支えているのは「根拠」です。両者の間に密接な関係があることを意識しながら、「主張」は何か、それを支える「根拠」は何か、ということを中心に要約文を組み立てます。

まず、条件②に注目してください。「しかし」「つまり」を使用することが決められています。「しかし」は逆接、「つまり」は結論を導く際に使用される接続詞ですね。ということは、「主張」は「つまり」の文に、「根拠」は「しかし」の文に入ると都合が良いようです。では、実際に要約文を作ってみましょう。段落ごとにどのようなことが書いてあるでしょうか。

一段落……絶滅から守る対象として思い浮かべるのは「象徴種」ばかり

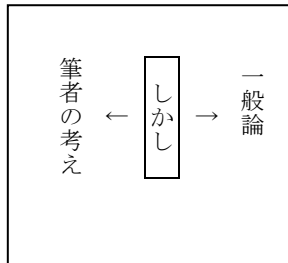
二段落……人々の関心を集めることができる「象徴種」によって集まった資金は、主に象徴種の保護のために使われる

三段落……知名度の低い、象徴種に該当しない多くの動植物が絶滅の危機に直面している

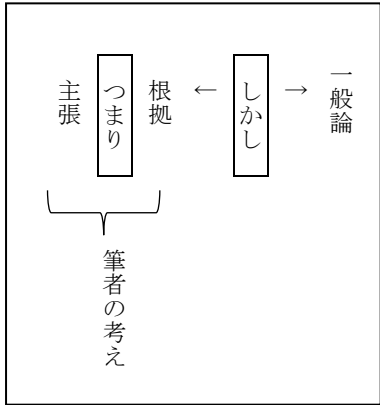
四段落……象徴種以外の種にも目を向け、ルールや手立てを講じて保護を検討することを考えていかなければならない

このように抜き出してみると、【一・二段落】と【三・四段落】とでは、絶滅危惧種について異なることを言っていることが分かります。

【一・二段落】では、「思い浮かべるのはとかくこういった『象徴種』ばかり」という言葉からも分かるように、一般的象徴種についてのイメージや保全事業の現状について述べられています。論理的文章は多くの場合、一般的にこう考えられる・多くの人がそうイメージしがちである(一般論)に対して、それとは異なる筆者の考えが提示される形式がとられます。



一般論とは異なる筆者の考えを述べるわけですから、当然「根拠」が必要となってきます。



つまり、一般論や現状としての絶滅危惧種保護について【一・二段落】から一文でまとめ、根拠・主張を【三・四段落】からまとめます。

【正答例】

私たちが絶滅から守る対象として思い浮かべるのは「象徴種」ばかりである。しかし知名度の低い動植物も絶滅の危機に直面している。つまり、私たちは象徴種以外の種にも目を向け、保護していく必要があるのである。（九十九字）

参考までに、誤答例も挙げておきます。

【誤答例】

例1 ①多くの人が目にする絶滅危惧種のポスターは象徴種ばかりである。しかし、②知名度の低い生物が知られていないことは大きな問題だ。つまり、③近しい存在の危機を知り人気の動物だけを守らないようにすべきだ。

傍線部① ポスターを目にするからどうなのかということを書いていません。（私たちが絶滅危惧種として描くイメージは象徴種ばかりなのだ、ということろまで述べる必要があります。）

傍線部② 「知られていない」のが問題なのではなく、「絶滅の危機に直面している」ことが問題です。ですので、ここを拾うことが重要です。

傍線部③ 本文中で言う「近しい存在」は「象徴種」のことなので、このように繋げると文意が不明の一文となってしまいます。

例2 私たちは人気のあるゾウやトラといった①「象徴種」ばかり守ってしまう。しかし世界では、三万五千種以上の動植物が絶滅の危機に直面している。つまり私たちは②人気者だけが守られる世界を変えていかなければならない。

傍線部① 何から守るのかについて触れておらず、言葉足らずになってしまっています。

「絶滅から」と対象を書いた方が適切な回答になります。

傍線部② どう変えていくのかについて触れる必要があります。要約が「くない。」という否定表現のみの指摘になったら要注意です。ではどうするべきだと本文で書いているのか、適切な部分を拾い、筋が通るようにまとめましょう。

以上のことを参考にして、一般論と筆者の考えの相違、筆者の考えを述べるための「根拠」と「主張

の関係などに注意しながら、要約文の練習をしてみてください。文章を正確に読み、その内容を的確にまとめる力を身につけましょう。

【入試で出題した古典を面白く解説しています】

これまでに本校が出題した古典の問題の本文について、本校教員がブログや動画で楽しく読めるよう解説をしています。古典が身近に感じられるようになると思います、ぜひご覧ください。（ブログ・動画共内容は同じです）

【ブログ】

「馬鹿馬鹿しくて面白い中杉入試古典」

<https://chusugikoten.blogspot.com/>



ブログ

【動画】

「馬鹿馬鹿しくて面白い中杉入試古典」(YouTube 再生リスト)

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLQHHzeoelUR4nQUExUjstnh-1VBx5tL4x>



動画